

河北新報

2020年(令和2年)
5月23日(土)
河北新報社
〒980-8660
仙台市青葉区五橋1-2-28
www.kahoku.co.jp

「東は、未来」
総合案内 022(211)1111
読者センター(211)1447
ご購入申し込みは
オオク ミナヨム
0120-09-3746

再生へ心ひとつに

東日本大震災関連記事

大熊 帰還困難区域 初の田植え 29

東京電力福島第1原発事故に伴う特定復興再生拠点区域にある福島県大熊町下野上地区で、コメの試験栽培が始まった。帰還困難区域での営農目的の栽培は初となる。



石巻「レジャーの灯消さぬ」25

石巻市のレジャー施設「ブレナミヤギ」が手探りで営業を続ける。震災、台風の被害に遭い、新型コロナ感染拡大で一時的休業したが、港町のレジャーの灯を守り続ける。



女川1号機 廃炉 9月までに着手 3

社説 デジタル遺産 7

新型コロナ

看護職9割精神的負担増

宮城の病院感染リスク主因 東北大調査

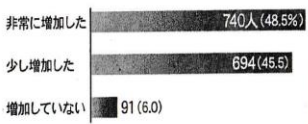
新型コロナウィルスの感染拡大後、宮城県内の病院に看護職として勤務する人の9割以上が「精神的負担が増した」と実感していることが、東北大のオンライン調査で分かった。感染リスクと隣り合わせの職場状況や業務の複雑化が理由とみられ、専門家は「医療現場の離職者が増えかねない」として労働環境や処遇の改善を訴えている。(3面に関連記事)

主な調査結果は以下の通り。回答した看護師や看護士らからは、実際に新型コロナの感染者や、感染の疑いのある患者に対応した経験があるのは全体の4割だった。

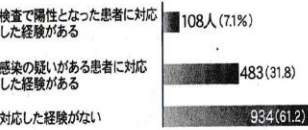
一方で仕事への精神的な負担が、非常に増加したとの回答が48.5%と半数

職場の外でも負担を感じている全態が明らかになった。新型コロナについて自

Q 新型コロナウイルスの影響で、仕事に関する精神的負担は増したか



Q 新型コロナウイルス感染症患者に対応した経験はあるか



調査した東北大大学院医学系研究科の朝倉京子教授(看護管理学)は「強いストレス反応や心身の不調を訴える看護師がいると危険される」と指摘。「医療の質の確保に向け、コロナ対応への診療報酬の追加や、通常診療が減った分の補助金支給など経済的な支援が必要だ」と強調する。

看護職調査

「差別・偏見経験」12%

家庭内で孤立の事例も

新型コロナウィルスの感染拡大を受け、東北大が宮城県内の病院勤務の看護士らを対象に実施したオンライン調査では、回答者の12%に当たる1,033人が新型コロナに関連する差別や偏見を経験していた。家族が別的な扱いを受けたケ

「地域の行事で『病院で働いている人には来てほしくない』と言われた。『スーパーの駐車場、見知らぬ男性が車内の病院の駐車証をのぞき込み、『コロナの病院のやつは出歩くな』と言われた』など、偏見を受けた

けた事例が目立った。保育施設を利用する看護師からは「保育園で子どもが隔離され、他の園児と別室で過ごしていた。『保育園に子どもを保育を断られた』との証言が寄せられた。病院勤務を理由に『夫が勤務先からテレワークや外出自粛を求められた』との回答もあった。

「感染を心配して親戚がわが家に来ることを避ける。『ウィルスを持つてくるな』と言われる。『家族に『感染したら困るから会いたくない』と言われた』など、家庭内や親族間で孤立するケースもあった。

調査を担当した東北大大学院医学系研究科の朝倉京子教授は「看護職は患者に最も近く、親しみやすい医療者である反面、女性の多い職場で、社会的に低く見られるが、差別の解消につながるような医療機関への支援を行政側から求めている。